

国内の侵襲性髄膜炎菌感染症（Invasive Meningococcal Disease: IMD）の報告数（図1）は、報告の対象となった2013年から2019年までは年間20～40例程度であったが、2020年の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行開始後に減少した。しかし、2023年の報告数は21例とCOVID-19流行開始前の水準に戻り、2024年の報告数は過去最多の66例となった。

2025年4月に日本国際博覧会（大阪・関西万博、以下万博とする）の開幕を控えており、万博に向けての感染症リスク評価¹においてIMDは大会に関連した集団発生、大規模事例かつ重症度の高い症例の発生が懸念されることから注意すべき感染症として挙げられている。大会に関連した事例が発生した際には、公衆衛生対応のために国内外へ日本のIMDの基本的な疫学情報を提供する必要性が生じる。

このため、本稿では最近2年間（2023年、2024年）のIMDの発生動向をまとめた。尚、症例定義や集計方法については、感染症法に基づく侵襲性髄膜炎菌感染症の届出状況のまとめ（更新）、2013年4月～2023年6月（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/bac-meningitis-m/bac-meningitis-idwrs/12866-mlst-20240912.html>）を参照されたい。血清群については、感染症発生動向調査システムに登録された情報と、国立感染症研究所細菌第一部で判定された結果を含めて集計した。

図1 侵襲性髄膜炎菌感染症の報告例の月別推移

（2013年4月1日～2024年12月31日診断分、2025年1月20日時点、n=357）

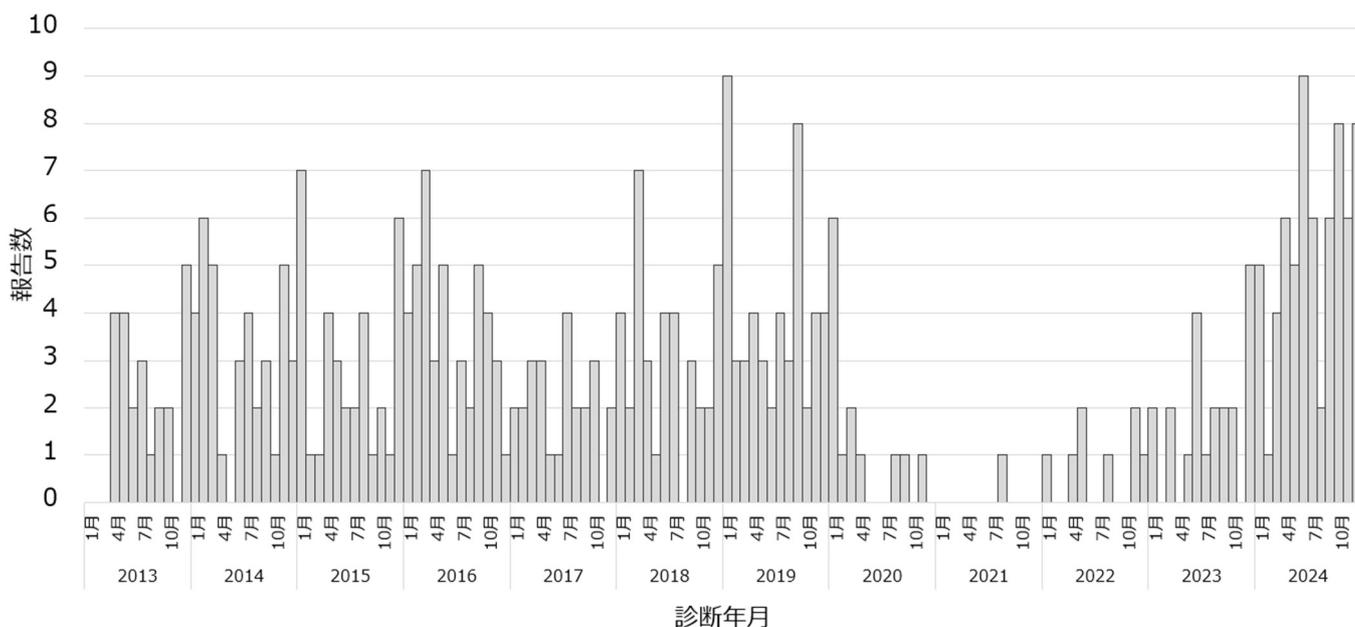


表 侵襲性髄膜炎菌感染症の報告例の基本情報

(2023年1月1日～2024年12月31日診断分、2025年1月20日時点、n=87)

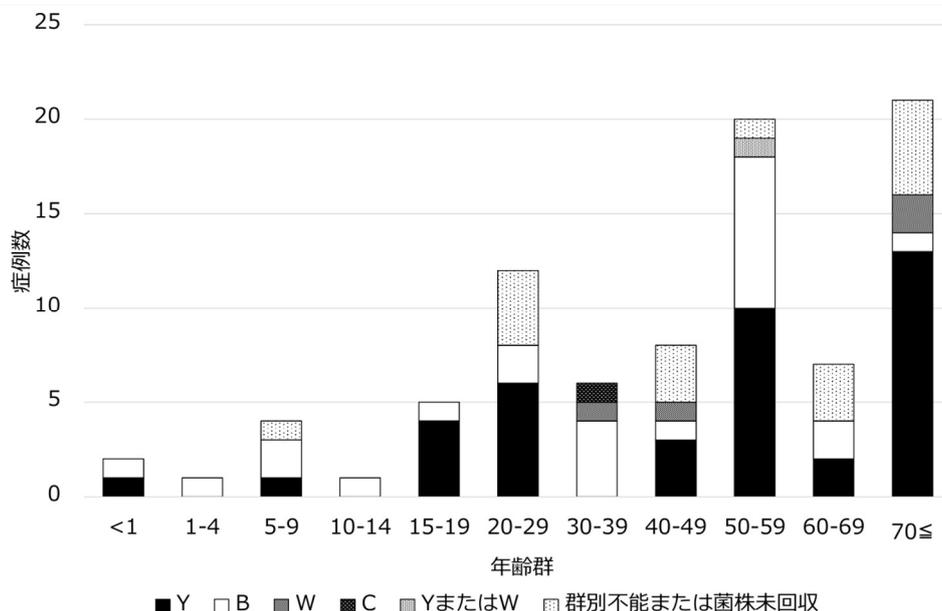
		症例数	割合
性別 n,(%)	男	57/87	(66)
	女	30/87	(34)
年齢中央値[四分位範囲]		54歳	[32-70.5歳]
死亡(報告時点) n,(%)		3/87	(3)
髄膜炎菌ワクチン接種歴 n,(%)	有	3/87	(3)
	無	46/87	(53)
	不明または記載なし	38/87	(44)
血清群 n,(%)	Y群	40/87	(46)
	B群	24/87	(28)
	C群	1/87	(1)
	W群	4/87	(5)
	YまたはW群	1/87	(1)
	群別不能または菌株未回収	17/87	(20)
共同生活の有無 n,(%)	有	57/87	(66)
	無	29/87	(33)
	不明または記載なし	1/87	(1)

症例の特性を表に示す。男性が66% (57/87)、年齢中央値は54歳(四分位範囲32-70.5歳)で、報告時点での死亡は3% (3/87) あった。髄膜炎菌ワクチン接種状況が報告されていた49症例のうち、接種歴有は3例のみであった。共同生活有と記載されていた57例には同居家族との生活等も含まれているが、そのうち、寮や社会福祉施設での共同生活有と記載されていたのは3例であった。推定感染地域が国外であった4症例はすべて血清群が判明しており、3症例はW群、1例はB群であった。

当該期間における都道府県別の報告数は東京都と大阪府がそれぞれ14例と最も多く、次いで千葉県が7例、兵庫県と愛知県が4例であった。

図2 侵襲性髄膜炎菌感染症の血清群別・年齢分布

(2023年1月1日～2024年12月31日診断分、2025年1月20日時点、n=87)



2023年1月1日から2024年12月31日までに診断されたIMD報告例の年齢群・血清群別の報告数を図2に示す。15歳以上の報告例が全体の90%（79/87）を占めた。14歳以下の年齢群においては、報告例のうちY群が25%（2/8）、B群が63%（5/8）でB群の占める割合が高かったのに対し、15歳以上の年齢群においては、Y群が61%（48/79）、B群が24%（19/79）でY群の割合が多かった。

国内における人口10万人あたりのIMD報告数は海外と比較して低いが²、2023年以降増加傾向である。その症状の進行の早さと重篤度から患者が1例でも出たら「アウトブレイク」と捉え、迅速な届出と対応が原則³となる。引き続きIMDの発生動向への注視と迅速な対応が重要である。

謝辞：感染症発生動向調査に御協力いただきました保健所、地方衛生研究所、自治体本庁、医療機関の皆様に深く感謝申し上げます。

参考資料

1. 2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に向けての感染症リスク評価
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/allarticles/infectious-diseases/2555-mge/12450-expo2025ra.html>
2. Miho Kobayashi, et al. Epidemiology of invasive meningococcal disease, Japan, 2013 to 2023 Eurosurveillance Volume 29, Issue 46, 14/Nov/2024
3. 侵襲性髄膜炎菌感染症発生時 対応ガイドライン <https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/376-disease-based/sa/bac-megingitis.html>